



# JAあそだより

明けましておめでとうございます



俵山峠付近から望む初日



## ■主な内容

- 新年のごあいさつ
- 女性部フォーラム
- 各生産部会出荷査定会
- 「あそっ子スクール」ほか

## ●/人 阿蘇農業協同組合

本所 〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5  
TEL 0967-22-6111/FAX 0967-23-1088

## 農業者の将来展望と農業・農村の 活性化・再構築ができる新年に



阿蘇農業協同組合  
代表理事組合長  
丸山 信義

新年、明けましておめでとうございます。

組合員の皆様には、ご家族お揃いの中で、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素よりJA各事業への深いご理解とご支援に対しまして心より厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、水稻につきましては、田植期以降の低温及び日照不足の影響で穂数が少なく、加えて台風13号による倒伏により作況指数89という事で計画対比10万俵の取量減、野菜等については、7月の長雨により取量減ではございましたが、比較的高値で推移を致しました。しかし、平年と比較を致しますと大変厳しい試練の年だったのではないかと思います。

農業を取り巻く環境は、輸入農畜産物の増大による価格の低迷、農業者の高齢化、農業の担い手・後継者不足、加えて原油高による生産コストの増大が深刻化し、農家にとりまして厳しい状況が続いておりますが、消費者からは「安全・安心」な農畜産物提供への期待が、これまでも増して大きな高まりを見せております。

一方、新たな食料・農業・農村基本計画に基づく「品目横断的経営安定対策」の導入が、いよいよ本年からスタート致します。農協としましては、座談会を開催しながら、担い手の確保及び集落営農の組織化へ向け取り組んで参りました。加えて、各営農組織への支援体制を構築し、さらに組合員の皆様のお役にたてるよう推進して参ります。

ところで、昨年12月6日に「第22回JA熊本県大会」が開催されました。組合員の信頼と負託に応えていくためには、農業者の将来展望ができる農業・農村の活性化・再構築とともに、経済事業改革を柱とするJA改革の更なる実践を図るため

1. 「県JAグループ共通農業戦略」を軸とした生産基盤の再構築
2. 安心して暮らせる豊かな生活の実現と組織基盤の確立
3. 情勢変化等に応じた事業展開と経営基盤の再構築
4. 地域社会への貢献と環境問題への取り組み

以上大きく4項目について大会決議がなされたところです。

JA阿蘇と致しましては、組合員皆様の尚一層のご指導・御鞭撻を賜りながら、この決議を真摯に受け止め確実に実践して参る所存でございます。

本年が皆様方にとって最良の年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。





「家の光大会」を兼ねた第4回JA阿蘇女性部フォーラムが11月2日、国立阿蘇青少年交流の家で開かれ、女性部員をはじめ来賓・JA関係者ら約200人が出席しました。

フォーラムはオープニングセレモニーとして歌手の大庭照子さんの歌から始まりました。女性部の皆さんともすっかり馴染みとなった大庭さんは、「阿蘇からの風」や「小さな木の実」など最近の曲目から童謡まで約10曲余りを素適なおしゃべりとともに披露しました。続いて9月に行われた「家庭菜園コンクール」表彰が



華やかなコーラスで始まったオープニング

体験発表や講演会など充実のプログラムで盛り上がる！

オープニングセレモニー後、フォーラムが開会され田中部長が主催者挨拶で「今や営農や地域づくりにおいても、女性の参画が欠かせません。今後とも各自が自立の意識を持って女性部の活動に積極的に取り組んでいこう」と述べました。来賓挨拶ではJA阿蘇の後藤安弘常務はじめ各来賓から、これまで女性部が取り組んできた活動に称賛とエールが送られました。



会場につめかけた部会員の皆さん

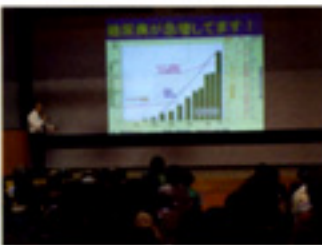
あり、最優秀賞に輝いた榎原純子さん（久木野）ほか優秀賞の甲斐いわたさん（蘇陽）・家人明子さん（一の宮）・本田ヒサミさん（阿蘇町）・宮崎文子さん（小国郷）に、田中弘子女性部長から表彰状と記念品が贈られました。



体験発表をしたお二人



家庭菜園コンクール表彰式



中山医師の講演



農節子さんの学習会



会場には絵手紙や手芸の作品も展示された



その後、恒例の「ちやぐりん感想文」発表と表彰に移り、高森町立高森東小4年の赤木美穂さんが「こはん、お米の力」、小国町立蓬菜小4年の杉野基平君が「ちやぐりん」を讀んで、同宮原小4年杉本耀君が「ちやぐりん」というタイトルでそれぞれ感想文を発表し、会場内から大きな拍手が起きました。

「体験発表」では、長陽支部の宮崎ヒサ子さんが女性部活動の一環として体験した「あそつ子スクール」地域の子供たちとふれあつて!!」を発表。一方、小国郷支部の

北千鶴さんは「農の花になろう!」というテーマで、「農花の会」活動を通して学んだ農村の素晴らしさなどを語りました。

午後からは学習会が行われ、JA熊本中央会営農生活センター副考査役の農節子さんが「JA女性組織活動ビジョンについて」という演題で、食と農を機軸とした活動に取り組めるJA女性部組織の価値の大きさを話し、さらにJA熊本厚生連診療所長で医学博士の中山茂樹医師がユーモアを交えながら、「肥満症予防で元気に長生き」という講演を行いました。



## 青壮年部熊本県大会

後藤さん、本田さん主張発表



後藤倫弘さん



本田真雄さん(右から2人目)

熊本県農協青壮年部協議会による2006年度JA熊本県青壮年部大会が11月7・8の両日、菊池市で開かれました。JA阿蘇からは部員の主張発表に「チャレンジ・ザ！新規就農」と題して後藤倫弘さん(二の宮支部)と、組織活動実践発表に「明るい農業人生のために……」とライフプランの進めりと題して本田真雄さん(高森・蘇陽支部)がそれぞれ発表をしました。

## 県花卉品評会で金賞 南阿蘇村の島田和幸さん



2006年度熊本県花卉品評会が11月10日、農業公園で開催され南阿蘇村の島田和幸さんの「フアイナルローズ」がみごと金賞に選ばれました。品評会には県内から200点以上が集まり、特に振興品目のトルコギキョウは50点の出展があり、うちJA阿蘇からは13点が出展されました。

南部宮農センター管内は、県内でも最もトルコギキョウの生産量が多い地域です。昨年も7月から出荷が始まり10月までに150万本が出荷され、12月には約20万本の出荷が見込まれています。金賞の島田さんは「まさか選ばれるとは……。これからの励みになります」と喜びを語っていました。同センター管内からはこれまで2度の農林水産大臣賞入賞があり、今後は3度目の大臣賞を目指すとはりきっています。

## ヒゴムラサキの漬物 共同研究でついに完成!

南部ナス部会では、摘果したヒゴムラサキを有効利用しよう」と熊本県食品加工研究所・阿蘇地域振興局と共同で漬物づくりに取り組み、このほど「ヒゴムラサキの漬物」が完成しました。

熊本赤ナス「ヒゴムラサキ」は高森町に2年前に導入され、現在26人の生産者が2.5haで栽培し市場に出荷しています。しかし、出荷には不向きで摘果したナスを活かして商品が出来ないかと担当者が食品加工研究所に依頼し、試作が2年前から始まりヒゴムラサキの特徴を活かした漬物づくりに取り組んできました。

同研究所の堤さんは「ヒゴムラサキは柔らかく、とてもおいしい



いナスです。普通のナスの皮を剥けば色が白いが、ヒゴムラサキは美しい緑色。空気に触れてしまうと色が変わってしまうので、その色と味を損なわないように苦労しました。また、地元の漬物屋に協力してもらい、色・味・食感とも今までにない漬物が完成しました。今後は漬物に限らず新しい商品づくりに頑張ります」と意欲を語っていました。同漬物は地元スーパーで試験的に販売され、今後、販売拡大を目指す計画です。

## 「おはようJA直送便」で 高森のピーマン紹介



ラジオの取材を受ける今村さん

10月17日、ラジオ番組「おはようJA直送便」で高森のピーマンが取り上げられ、生産者の今村淳一さんの圃場で取材が行われました。同番組は旬な情報を現場から送る生放送で、今村さんもやや緊張の様子でしたが「栽培が難しかった今年もいいものができた」とことなど伝えました。



## 小国郷営農センター 「朝どり市」客足順調!



固定客や観光客で賑わう  
「朝どり市」

J A阿蘇小国郷営農センターの朝どり市は、昨年8月9月と続けて1カ月の来場者が1万人を超えました。昨年は例年と比べて、夏場の日照不足の影響で家庭菜園の野菜の生育不良により生鮮野菜

## 阿蘇の花をチェンマイ 国際園芸博覧会に出展

南部花卉総合部会では昨年11月、タイのチェンマイで開催された国際園芸博覧会に生産者が丹精を込めて栽培したトルコギキョウ90本を出展しました。同部会では花の消費拡大のため、機会を見てはいろいろな会場に花を飾ってきましたが、

が不足。地元の旅館等をはじめとする固定客に加え、土・日の週末には熊本・福岡方面から生鮮野菜や花き等を求める観光客で賑わいました。また8月には7周年記念の販売イベントがあり、集客アップへ貢献したと思われます。

## 「強い産地を目指して」 施肥指導圃場で中間検討会

J A阿蘇南部営農センターでは昨年9月27日、土壌分析から施肥指導してきた農家の生育検討会を行いました。昨年からJ A阿蘇の土壌分析室稼働で農家圃場ごとの施肥診断が可能となり、過剰施肥の軽減につながり、作物にと

その結果、多くの来場者の目にとまり問い合わせも多くなってきました。後藤長谷男部会長は「これからの花を選んで買って頂けるように頑張りたい」と話していました。



展示会出展の花を切る生産者



経過の説明と今後の管理について協議する専任指導員

つての必要量の肥料を投入したことで初期の生育が安定し、梅雨時期などの異常気象時でも出荷が減少を抑えることが出来ました。

中間検討会では、これまでの出荷実績のデータから生育状況など品目ごとに検討。また、農家に普及してきた施肥診断の結果を今後どのように普及指導していくか、さらに中間検討会で見つかった課題をどのように改善していくか、今後も継続して観察をしていくことになりました。

今回の試みにナス農家の森田勝さんは「今までの肥料のやりかたとは違って施肥も少なく不安もあつたが、順調に生育し安心した」と感想を語っていました。

## 早めの準備を! 「青色申告記帳会を開催」

J A阿蘇南部青色申告会は9月29日、南部営農センター和室会議室で青色申告記帳会を行いました。同申告会では月1回の記帳会を開いてきており、農作業の合い間に記帳した分の確認を行っていました。これまでは申告時期から始める農家が多く、充分確認できなく租税対策がなかなか取れませんでした。記帳会を定期的に開催することで早くから租税対策が行え参加者も年々増えています。青色申告会ではパソコンを使った申告を推進しており、来年に向けて代行記帳導入の準備も進めています。

甲斐正則会長は「記帳指導を徹底することで農家経営の実態を把握してほしい」と話していました。



パソコン記帳による確認作業する会員





# 各生産部会で出荷査定会



## 「ほりだし君」西原甘藷部会



市場の情勢報告を聞く生産者

昨年9月21日、西原村構造改善センターで出荷査定会が開かれ、関係者や生産者70人が出席しました。片山勝潔部会長が「規格厳守を励行し産地の発展を目指そう」とあいさつ。その後、選果選別の確認を行い出荷計画が担当者から説明されました。06年は87人の生産者が110haで栽培、11月まで関西市場を中心に200tが出荷されました。

## 「種子馬鈴薯」野尻馬鈴薯部会

南部営農センターでは9月25日、高森町の河原出荷所で種子馬鈴薯出荷査定会を開きました。査定会には関係者や生産者20人が出席。瀬井幸夫部会長が「種子

## 「品質向上・収量アップ第二」中部イチゴ査定会

J A阿蘇中部イチゴ部会は11月15日、阿蘇いこいの村で2006年産イチゴ査定会を開催。生産者・地域振興局・J A関係市場や阿蘇北中学校から農業体験学習の1年生15人を加え、総勢

馬鈴薯として安心して栽培できる選別を厳守しよう」とあいさつ後、選果選別の確認を行いました。野尻地区の馬鈴薯は鹿児島や沖縄の農家に病害虫が少なくことから種子用としての需要が高く、高冷地である野尻地区で栽培されています。現在、16人の生産者が11haで栽培し80tの生産が見込まれています。



担当者からの説明を聞く生産農家の方々



査定会に出席した部会員



阿蘇北部中の皆さん

100人が参加しました。今年度の重点事項として品種の集約、規格統一を図り有利販売を行い、銘柄産地として指定認知されることを目指し、品質向上・収量アップを第一として、高品質生産管理を徹底することを確認しました。昨年度からは「さがほのか」を生産し、作付面積も60%増えました。今年度は面積14.2ha、生産者69人で約173万パック、5億1900万円の販売金額を見込みでいます。

## セイヨウオオマルハナバチ飼養等の許可申請の説明会

J A阿蘇南部営農センターではマルハナバチが「特定外来生物による生態系等に係る被害防止法律」に基づく特定外来生物に指定されたことから、昨年9月27日から3日間、関係農家を対象とした説明会を南部野菜センターで開催しました。説明会ではマルハナバチを使用する農家、今後使用を考えている農家約50人が参加。担当者から施行の時期、外来生物法の規制の内容、申請方法、さらに期限前までの申請スケジュールが説明されました。J Aでは農家の申請負担軽減を図るため、J Aで取りまとめることにしています。

## 表紙 「依山峠付近から望む初日」



阿蘇南外輪山の西原村と南阿蘇村久木野境界にそびえる「依山」は標高1095m。依山峠付近からは阿蘇五岳の大

パノラマが一望できます。県道28号の依山トンネルが開通しても、観光シーズンには多くのドライバーが雄大な眺望を楽しもうと押し寄せ、南阿蘇の観光スポットとなっています。



## 米 穀 情 報 (熊本県産米入札価格情報)

回 数	実施年月日	コシヒカリ		ヒノヒカリ		森のくまさん	
		17年産	18年産	17年産	18年産	17年産	18年産
早期米		16,148					
第 4 回	H18. 9 .20		15,236				
第 5 回	H18. 9 .27		15,207				
第 6 回	H18.10. 4		15,200				
第 8 回	H18.10.18	15,408	15,200	14,508	14,400	(14,405)	14,400
第10回	H18.11. 1		15,000		14,400		14,400
第 回	H18.11.22	(15,402)		(14,404)		(14,403)	
第 回	H18.12. 6						
第 回	H18.12.20	15,402		14,404		14,400	
第 回	H18. 1 .25	15,401		14,400		14,402	
第 回	H18. 2 .22	15,400		14,402		14,400	
第 回	H18. 3 .23	(15,400)		14,401		(14,400)	
第 回	H18. 4 .21	15,240		14,402		14,400	
第 回	H18. 5 .25			(14,401)		(14,400)	
第 回	H18. 6 .22	(15,214)		14,407		(14,400)	
第 回	H18. 7 .25			14,467		(14,403)	
第 回	H18. 8 .24			14,451		(14,454)	
単純平均価格		15,468		14,420		14,401	

※上記の価格は、大取届け・裸・1等の価格で、( )書きは参考価格。

☆県内米については第8回のに入札より3銘柄を上場していますが、「阿蘇コシヒカリ」1万5千円、「森のくまさん・ヒノヒカリ」1万4千4百円の落札下限価格(産地希望価格)を西日本地区の競争銘柄と比較して見ますと、県内米にやや割高感がある為か、県内米に対する応札意欲が今ひとつ欠けているように見受けられます。

## 「コープおきなわ」のアンケートから

☆JA阿蘇の阿蘇コシヒカリを供給している沖縄県の「コープおきなわ」が、消費者にアンケートを行ったご意見・ご感想、メッセージ等をご紹介します。「コープおきなわ」は阿蘇コシヒカリを以下のように紹介しています。「阿蘇コシヒカリは高冷地にあるため、害虫の発生も少なく農薬に頼らない農業ができる地域で、有機肥料をふんだんに使用した健康な土作りにもこだわっています。熊本県が示した慣行レベルの半分以下の農薬や化学肥料の量で栽培しており「特別栽培米」の認定を受けているお米です」

☆「コープおきなわ」へは年間400トンの阿蘇コシヒカリを出荷し、「コープおきなわ」が行ったアンケートの満足度調査でも「たいへん満足」に43%、「満足」に57%という結果が出ています。

### ☆アンケートの意見等

- ◇今回初めて阿蘇コシヒカリを注文しとてもおいしかった。
- ◇新米の時期にはいろいろな新米を試すが、「特別栽培米」にひかれ注文した。お米は毎日食べるので安心・おいしい・低価格は欠かせないが、阿蘇コシヒカリはぴったりだと思う。
- ◇「特別栽培米」なのにお手頃価格なので嬉しい。
- ◇今後、農薬や化学肥料の量が更に少なくなるといいと思う。
- ◇これから安全でおいしいお米をよろしく願います。
- ◇「特別栽培米」と知り一層安心した。作物は健康な土作りこそ命。安心・安全を合言葉にこれからも願います。
- ◇離乳食期の孫たちがいて、より安心・安全を求めて生協(コープ)提携の生産者のおかげといつも感謝している。
- ◇艶がありふっくら、もちりしておいしい米でした。
- ◇いつもヒノヒカリを利用しているがコシヒカリもおいしかった。出来れば安値で願います。
- ◇新米でとてもおいしかった。この値段で申し訳ないくらい。しかも安全で安心して食べれるとは言えない。生産者さん、ありがとう。
- ◇美味しいと家族より「おかわり」の声があり、夫が太らないかと心配の毎日である。



# 「あそびっ子スクール」 こびを実感!

モ・米



暑がりな秋だったおんねでハイ、グイス山

「まるごとあそびっ子スクール」の第4回授業が10月14日、南部地区管内の小学3～6年までの31人が参加して開かれました。今回は5月に作付けしたサツマイモと米の収穫をしました。サツマイモの収穫では、掘り起こしたサツマイモの大きさにびっくりしたり、米の収穫では刈鎌を使い稲を刈り取り、刈り取った稲をコンバインで脱穀するなど、子どもたちは汗をかきながら作業を行っていました。その後、白水ライスセンターで収穫した米がどのようなのか、担当のJA職員から説明を受けました。

昼食の時間では、暑い中、収穫作業を終えた子どもたちが女性部が作っただご汁とおにぎりを食べながら、友達になった他の小学校の子どもたちと会話を弾ませていました。



さすが、  
みんな手つきは  
よかバイ!

JAのお兄さんと  
お友だちになっただよ!



女性部のみなさんが作った  
だご汁とおにぎりはまいらう!!



白水ライスセンターで農産物を知る子どもたち



# 第4回JA阿蘇「お 収穫のよろこび」

サツマイ



あじはいいの  
このサツマイモー



トカゲが  
いたよ!



コンテナが  
サツマイモで  
いっぱい  
なつたよ!



足からは全部のサツマイモをそろそろ取り出しました!





女性フォーラムで「ちやぐりん感想文」を発表した  
(写真右から)赤木さん、杉野君、杉本君

## こはん・お米の“力”

高森町立高森東小4年 赤木 美穂

ちやぐりん感想文、あーあと思ひ、本をバラバラとめくっていたら、私がふだんなにげなく食べているこはん、「お米」のことが、多くかかれています。お米が目に入り、読んで見たく、きょうみをもちはじめました。

お米と私たちは、一言で毎日、口にしているように、思うのですが、お米を育てるまでには、種をだし、育て、

苗を植て、管理と、精米・白米となるまでには、いろいろな手間と時間がかかることも気付きました。

私は、お米をちやぐりん調べて、お米が時間をかけて出てくるとは思っています。自ぜんのお米のすこさを感じました。

そんな中、私たちは、なにげなく、お米を毎日あたりまえのように食べている、私たちは、最近では、日本の食生活にも、パンが広まり、特に朝食、食が進まないということ、パン食の子どもの多いとよく耳にします。朝から、しっかりと、お米を食べるのが、一番だと思います。

私たち人間には、頭や体を動かすときの、「エネルギー」。げん、になり、もう一つは、自動車にとっては、「ガソリン」。のような、役わり、一日の始まりでは、ないかと、私はいろいろな米の本を読み、また人に聞き、そう、思いはじめることが多くなりました。米、一つぶにしても、たぐさんの、パワ―があり、成分にも炭水化物、お米全体、やく七十パーセントをしめている、ようだそうです。私たちは、なにげなく食べ、いらないなら、残すとの、生活の中、もう一度、自分自身で考えて、みたいと思いました。

一年に一度しかしゅうかくできないお米は、一つぶ一つぶが、とても大切。しかもお米にはたぐさんの、「すこい」。

物が、かくれているそうです。

私が、お米のことについて考えていたら、ふだん自分たちが食べているお米は、私たちの「エネルギー」。や車の「ガソリン」。などの役わりをもっているということ、初めて、しりました。

あと、一年に一度しか、できないお米は、一つぶ一つぶが、とても大切だし、お米には、「エネルギー」。をもっているから、一つぶ一つぶを大切に食べたいです。

## 「チャグリン」を読んで

小国町立蓬萊小4年 杉野 慧平

ばくが、チャグリンを読んで、一番心にこたったのは、変身する牛ふんです。三年生のころは、牛のふんは、きかないと思っていました。四年生になつてから、市原希美ちゃんという友達の家に行くと、牛のふんが、四年生全員でいきました。そこで牛のせわをしているおじさんの話を聞いていろいろな事をしりました。それは、この本に書いているように、うんちは一日に20キロ、40キロという事とおしっこは一日10リットルということ、そして、この本を読んで知った事は牛はけしきたない動物じゃないことです。今、ぼく達の学校では野菜を作っています。でも野菜には、水と太陽と土が大

切です。太陽は自ぜんのお米のめぐみだと思ひます。水は雨のめぐみだと思ひます。でも雨がふらない時はぼく達が水をあげます。でも土は自ぜんのお米のめぐみだけではありません。ひりょうというたいひが必要で、そのたいひが、ぼくがきたないと思ひたいうんちからできています。ぼくはびつくりしました。いらないと思ひたいものが実はとても大切な働きをしているという事です。そのおかげでぼく達はおいしい野菜を食べれてすくすくと育つています。今年、ナス、ピーマン、キュウリ、トマト、オクラ、シシトウいろいろな物を育てています。ぼく達だけで育てていたと思ひたいけど牛のおかげでもあるという事を知りました。また、たいひには牛のほかに、ブタ、ニワトリいろいろなたいひがあるんだなという事と、ゆつくりきいたり、はやくきいたりするところもあるという事がわかりました。人間と動物と野菜が、しよに生活をしてくるんだなあーと、かんじました。

## ちやぐりん

小国町立蓬萊小4年 杉本 耀

去年から楽しみにしていたちやぐりんが、今年もとどいて、とてもうれしかったです。ぼくはスポーツが好きだから、最初はばらばらとページをめ



くつたら、へたっぴキック!!」があったので、すぐに読みました。そしてやっばりおもしろいなあと思いました。平太はすごい守り方やすごいキックとかをするからとてもおもしろいと思いましたが、

次に読んだのは、イラストでいろんな会です。全国のいろいろな集の人の絵を見ると次はくも、送ってみたいなくと思えました。

その後、かぶと虫のページが目が行きました。そして、世界にはいろんな虫がいるんだなあと思いました。しかもそれをナンバードンとかに表しているから、ますますおもしろくなってきました。ぱくが住んでいる小国には、かぶと虫がいます。でもめずらしいしゆ類のかぶと虫は、小国にいないからつかまえたことがありません。

次のページをめくると、砂とうのページがありました。そして、いろんな砂とうがあるなと思えました。お母さんがプリンを作るのが上手です。プリンの上のカラメルを作る時グラニュー糖とうを使っています。砂とうは、水とかを加えるといろんな形に変化する事が分かったし、おもしろいなあと思いました。

次のページは、石でアートでした。前に、拾ってきた石の形がおもしろかったので、色をぬった事があります。その時はかんたんな色でした。今も家に

かざっています。でもちやくりんののは、カラフルだし、その中でもだるまがおもしろいです。ぱくの拾ってきた石は車がかげそうだったです。

ぱくは、せつたいに見のがさないうべーじがあります。それは古いです。ぱくは12月9日生まれたからいて座です。

最後に、お母さんがこれを見てんといつたから、読んでみました。それには、「今、世界で8億人がうえと栄養不足に苦しんでいます」と書いてありました。日本は40%が自給していて、60%が外国からのゆい入だそうです。そういえば、買い物をしてる時、バナナにイリピン産と書いてありました。他に、お肉やくだ物がゆい入されてました。だから、なるべく地元のをかうようにしたいです。それが、作っている人もうれしいし、小国の物が商品として売れる事も、うれしい事だと思えました。

ぱくの、じいちゃんとはあちゃん、ナス・米・レタス・キャベツ・キュウリ・オクラなどを作っています。

じいちゃんは毎日必ず田の水を見に行っています。ばあちゃんは一りん車をおして野菜を取りに行っています。じいちゃんやばあちゃんは、自分で作るからすごいと思えました。じいちゃんばあちゃんがつくってくれる野菜はとてもおいしいです。

(※文章は原文のまま掲載させて頂きました)

## 生産者とJA職員が先生 『もつと地元野菜を給食に!』

JA阿蘇中部園芸部会(室治夫部会長)は、もつと子どもたちに食について関心を持ってもらおうと、阿蘇市と産山村の小中学校給食に地元野菜を提供しています。

昨年9月19日、給食にトマトを提供した阿蘇市立山田小3年生の授業では、野菜について学習しました。室部会長が「採れたての野菜をさきょうの給食でおいしく食べて下さい」とあいさつ。続いて、山本誠也副部長が「トマトが出来るまでを因で、「トマトは暑さに弱いので、水をやったり肥料をやったりして病気になるないように育てています」と分かりやすく説明。JA職員の斉藤博満指導員は「野

菜は食べる場所が分業されていまず。食べる時にも考え食べて下さい」と野菜を食べることや朝ごはんの大切さを教えました。

担任の堺若菜先生は「少し緊張気味でしたが、園場で授業する総合学習の参考になりました」と話していました。

室部会長は「管内の小中学校に今後も地元の野菜を提供し、授業の一環として種蒔きから収穫などを体験できるように生産農家も手助けしたい。また地元野菜を学校給食に取り入れてもらい、農家経営の安定につなげたい」と抱負を語っていました。



室部会長



山本副部長



JAの斉藤指導員



生産者やJA職員の授業を受ける子どもたち



## 飼料用稲「ニシアオバ」 阿蘇市で現地検討会



検討会での状況説明



「ニシアオバ」作付の水田

飼料用稲専用品種で九州地域に適した「ニシアオバ」(九州沖縄農業研修センター(筑後)が育成)の普及を目指した現地検討会が10月4日、阿蘇市黒川の水田などで開かれ、畜産農家や阿蘇市職員など28人が参加しました。

稲作における米消費量の減少や生産調整の拡大に伴い耕作放棄水田が増加する中、水田の有効利用と飼料自給率の向上のため、さらなる生産拡大が必要とされています。この取り組み推進のため先進地域の状況を把握し、関係者が様々な情報を共有することが今

検討会の目的です。ニシアオバは阿蘇地域ですでに75ha作付けされ、特に畜産農家においては稲発酵粗飼料は嗜好性が高いと、総じて評価は良好です。

検討会では、阿蘇地域の飼料用稲の生産状況、稲発酵粗飼料の現状、ニシアオバの品種特性、熊本牧場における飼料用稲専用品種の種子増殖、稲発酵粗飼料の地域利用システムが報告されました。

また、(有)やまうち農産で飼料用稲の生育状況の現地見学があり、山内幸二代表が飼料用稲生産・給与と06年度ニシアオバの作付状況などを報告し、機械による実演が行われました。

### 戦略デザイン研修会

#### 後藤弘之助職員 報告

経営幹部職員養成を目的にした平成18年度「戦略デザイン研修会」が4月から11月まで、合志市のJA熊本教育センターで実施され、その研修成果発表報告会が11月21日、同センターで行われました。この研修会は21世紀にJAが競争優位を確保するための戦略的な思考力・発想力を身につけ、改革の先頭に立つて具体的に事業展開できる人材の育成

最優秀賞に一の宮チームの塚本・井・高橋さん

### ロールプレイング阿蘇大会

10月21日、一の宮中央支所で信用窓口担当者によるロールプレイング阿蘇大会が行われ、最優秀賞に一の宮中央支所の塚本かよみ・井美子・高橋鶴也さんの3人が選ばれました。農林中金熊本支店の職員ら10人を審査員に迎え、お客さまに選ばれ信頼される地域ナンバーワンの窓口を目指し、11チームが与えられた課題で競い合いました。今回より3人1組でチームが編成され、テラー役・顧客役・上司役を各チーム所要時間ですれぞれ工夫を凝らしました。

中には漫才を見ているような気分させられるほど楽しいチームもあり、会場が笑いに包まれました。

最優秀賞チームは1月に宇城市で開かれる県大会に出場します。

成績は次のとおり。  
▽優秀賞Ⅱ 矢津田秀樹・上島由香・市原恵一(白水中央支所)・三苦真弓・芝美紀子・大塚嘉久(小国郷中央支所)

を目的とし、研修生が改革案を企画立案し発表するものです。報告会には県下JA19人の研修生のほか、各JAの組合長や県青壮年部協議会員、県女性部協議会員ら46人が出席しました。

JA阿蘇からは小国郷中央支所の後藤弘之助さんが「危機的構造やJAとしてのあるべき姿、経営管理など役職員が勉強しながら組合員や地域住民に理解してもらい、地域の総合JAとして発展させて行かなければならない。その手段の一つとして顧客とJA

(支所)の橋渡しが重要。信用渉外として各事業の知識を少しでも頭に入れ、組合員、地域住民の方と会話や提案等に活用するようにします」と発表しました。



講師の島田先生(左)、後藤職員(中央)、JA阿蘇兼県女性部協議会の田中弘子理事



最優秀賞の一の宮チーム



# 各スポーツ大会に爽やかな汗

## 親善ソフトバレー県大会

第31回J A熊本県親善ソフトバレーボール大会が10月7日、大津町総合体育館で開かれ、J A阿蘇からは「まるごと阿蘇A」（南部地区混合チーム）、「B」（阿蘇町チーム）、「C」（小国郷チーム）、「D」（阿蘇町チーム）の4チームが出場しました。各チームとも予選リーグ3試合（Dチームは2試合）善戦し、Aチームが予選を突破し決勝リーグに進みました。決勝リーグではJ A菊池（平均年齢の若い）チームと対戦し惜しくも敗れました。（お疲れ様でした！）



大会に出場したチームのみなさん

## J Aバンク熊本・年金友の会 第8回親善クラントゴルフ県大会



林成男さん(写真右)と井律子さん

大会は11月15日、パークドーム熊本で開催され、Bブロックで高森の林成男さんが3位、Aブロックで産山の井律子さんが7位に入賞しました。県内最大級の大会で8回目となる今大会には、J A阿蘇から予選を勝ち抜いた45人を含む483人が出場。開会式後、A・Bブロック計78に組み分けされた各チームは、ロートーション式で1ゲーム8ホールを2ゲーム実施する打順でプレーしました。閉会式後、お楽しみ抽選会が行われ、各特別賞に次の方が選ばれました。（敬称略）

▽熊日新聞社賞Ⅱ内田重敏（二の宮）  
▽熊日広告社賞Ⅱ大塚政幸・坂梨幸人（二の宮）  
▽特別賞Ⅱ坂本まち子（西原）

## J A共済ふれあいミニバレー

第9回J A共済ふれあいミニバレー大会が11月25日、益城町総合体育館で開かれJ A阿蘇からは「おちやめなMADAM!」（古城愛好会）「White Water」（高森はなしのぶ）の4チームが出場しました。各チームとも善戦しましたが、残念ながら決勝進出までできませんでした。



おちやめなMADAM!



古城愛好会



White Water



高森はなしのぶ

## 「永年のお勤めご苦労様でした」 退職者表彰式行われる



表彰を受けた退職の方々

2006年度退職者3人の表彰式が10月31日日本所で行われ、当日出席の2人に丸山信義組合長から賞状と記念品が贈られました。表彰を受けた方たちは「退職する年は1日1日が早く、あっという間に1年が終わった」と感想を述べ、「今後は趣味の園芸を」また「健康に注意してのんびりと趣味でもしたい」と話していました。





## 理事会・監事会報告

### ■平成18年度第8回理事会

日時 平成18年10月31日 午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

- 1.開会
- 2.組合長挨拶
- 3.協議事項

委員会報告（債権管理委員会）

平成18年度上半期実績報告

- 1) JA教育ローン「希望」キャンペーン実施に伴う特別金利の採用及び振込手数料の減免について
- 2) 総合展示会時の農機・自動車ローン特別金利対応について
- 3) 災害資金対応について
- 4) 貸出金について
- 5) 畜産近代化リース事業について
- 6) 情報セキュリティ基本規程について
- 7) 個人情報保護体制について

報告事項 全国監査機構期中監査実施について

報告事項 平成18年度上半期決算事務監事監査実施について

報告事項 平成18年度上半期内部監査実施状況報告について

報告事項 平成18年度産米検査実績について

報告事項 余裕金運用状況について

### ■平成18年度第9回理事会

日時 平成18年11月28日 午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

- 1.開会
- 2.組合長挨拶
- 3.協議事項

10月期末実績報告及び3月見込み決算について

- 1) 貸出金について

①貸出金について

②農協借入金について

- 2) 第22回JA熊本県大会の開催について
- 3) 担い手集落営農組織に対する出資金対応について
- 4) 出資減口について
- 5) 飲酒運転に係る処分の見直しについて
- 6) 平成19年度職員二次募集について
- 7) 職員年末賞与支給について

報告事項 12月定例理事会について

報告事項 JAバンク基本方針に基づく

「経営状況に関する事項の報告」について

報告事項 建設委員会報告(固定資産取得状況)について

報告事項 山田としお後援会加入名簿の提出依頼について

### ■平成18年度第5回監事会

日時 平成18年10月20日 午後1時30分

場所 本所会議室

- 1.開会
- 2.挨拶
- 3.議題

- 1) 平成18年度全国監査機構期中監査実施 について
- 2) 平成18年度上期決算監事監査実施について
- 3) 平成18年度上半期内部監査実施状況報告書について
- 4) その他 研修会 上期決算監事監査について

### ■平成18年度第6回監事会

日時 平成18年11月30日 午後1時30分

場所 蘇陽中央支所会議室

- 1.開会
- 2.挨拶
- 3.議題

- 1) 平成18年度上半期監事監査報告(案) について
- 2) 平成18年度導入家畜等種別監査実施(案) について
- 3) その他

## JA阿蘇きらり

好きなタイプ

「普段は冷たいが本当はやさしい人…」

西原中央支所金融共済課 石田 智美

昭和52年12月生まれ  
(住所:熊本市)

好きな異性のタイプは「普段は冷たいが、本当はやさしい人」が好みたそうです。現在、石田さんは着付け教室に週1回通い勉強をしています。将来は着付けの助教の免状を取得したいとのこと。取材を通して質問に頭を抱えることの多かった石田さんですが、着付けに関しては即答でした。夢に向かって頑張ってください。

西原中央支所金融共済課で貯金業務を担当して9ヶ月。「業務にも少し慣れ、組合員さんの顔と名前も少しずつ覚えていきます」と石田さん。毎朝、自宅から40分かけ西原中央に出動しています。趣味は旅行で、10月には大阪へ旅行。昨年はすでに5回も旅行に出かけ、時には海外旅行にも出かけているそうです。





# JA阿蘇職員異動のお知らせ

氏名	新 任 令	発令年月日	旧 任 令
大塚 嘉久	小国郷中央支所長	平成18年10月1日	小国郷中央支所長代理
今村 昭洋	長陽中央支所長陽給油所長	平成18年10月1日	長陽中央支所長陽給油所係
高橋 直子	事務電算室事務電算課購買事務処理係	平成18年10月1日	事務電算室事務電算課農務事務処理係
瀬井 真子	事務電算室事務電算課購買事務処理係	平成18年10月1日	事務電算室事務電算課農務事務処理係
北里 丈夫	小国郷中央支所南小国金融店舗統括兼購買課Aマート店長	平成18年11月1日	小国郷中央支所購買課Aマート店長兼南小国支所統括
宮崎 時男	長陽中央支所長代理兼白水中央支所金融共済課南部地区LA係	平成18年11月1日	白水中央支所金融共済課南部地区ブロックLAチーフ
今村 和夫	中部営農センター農産課長兼地域水田農業推進協議会出向統括(阿蘇市・葦山)	平成18年11月1日	中部営農センター農産課長兼阿蘇町地域水田農業推進協議会出向統括
西村 晴男	中部営農センター農産課農産係兼地域水田農業推進協議会出向(一の宮)	平成18年11月1日	中部営農センター農産課農産係(一の宮駐在)
北里 卓也	小国郷中央支所購買課長代理	平成18年11月1日	小国郷中央支所購買課購買係
市原 恵一	白水中央支所金融共済課南部地区ブロックLAチーフ	平成18年11月1日	白水中央支所金融共済課南部地区LA係兼長陽中央支所長代理
井野 隆	中部営農センター農産課農産係兼地域水田農業推進協議会出向(阿蘇町)	平成18年11月1日	中部営農センター農産課農産係
阿部 泰隆	中部営農センター農産課農産係兼地域水田農業推進協議会出向(阿蘇町)	平成18年11月1日	中部営農センター農産課農産係兼阿蘇町地域水田農業推進協議会出向
後藤弘之助	小国郷中央支所金融共済課渉外係兼小国金融店舗駐在	平成18年11月1日	小国郷中央支所金融共済課渉外係
三苫 真弓	小国郷中央支所金融共済課融資係	平成18年11月1日	小国郷中央支所金融共済課貯金係
吉田 茂成	阿蘇町中央支所共済課LA係(黒川金融店舗駐在)	平成18年11月1日	阿蘇町中央支所共済課LA係(黒川)
芝 美紀子	長陽中央支所金融共済課金融共済係	平成18年11月1日	小国郷中央支所金融共済課融資係
山部 聡輔	中部営農センター農産課農産係兼地域水田農業推進協議会出向(一の宮)	平成18年11月1日	中部営農センター農産係(一の宮駐在)
金丸 美和	小国郷中央支所金融共済課貯金係	平成18年11月1日	小国郷中央支所金融共済課南小国支所係
佐藤 邦博	中部営農センター農産課農産係兼地域水田農業推進協議会出向(阿蘇町)	平成18年11月1日	中部営農センター農産課農産係(黒川中央支所駐在)兼阿蘇町地域水田農業推進協議会出向
鳥川 英輔	中部営農センター農産課農産係兼地域水田農業推進協議会出向(阿蘇町)	平成18年11月1日	中部営農センター農産課農産係兼阿蘇町地域水田農業推進協議会出向
織田 尚仁	中部営農センター農産課農産係兼地域水田農業推進協議会出向(一の宮)	平成18年11月1日	中部営農センター農産課農産係(一の宮駐在)
清水 雅美	小国郷中央支所金融共済課南小国金融店舗係	平成18年11月1日	小国郷中央支所金融共済課小国支所係
村上 敬	阿蘇町中央支所金融課金融渉外係(内牧金融店舗駐在)	平成18年11月1日	阿蘇町中央支所金融課金融渉外係兼金融係
小嶋 幸俊	中部営農センター農産課農産係兼地域水田農業推進協議会出向(阿蘇町)	平成18年11月1日	中部営農センター農産課農産係兼阿蘇町地域水田農業推進協議会出向
中島 壽也	阿蘇町農機車輛センター車輛係	平成18年11月1日	新採用
藤川 平政	南部農機車輛センター車輛係	平成18年11月1日	新採用
伊沢 孝洋	南部農機車輛センター車輛係	平成18年11月1日	新採用
曾我 勝徳	長陽中央支所長	平成18年12月1日	営農部営農次長兼営農企画課長
津留 尚三	営農部営農次長兼営農企画課長	平成18年12月1日	草部支所長
工藤 徳義	草部支所長	平成18年12月1日	南部営農センター園芸課花卉専任指導係
下城 ちずる	事務電算室事務電算課購買事務処理係	平成18年12月1日	阿蘇町中央支所共済課共済係
本田 聡	阿蘇町農機車輛センター車輛係	平成18年12月1日	新採用

## 平成19年度JA阿蘇職員二次募集

### 1. 申込書類受付期限 = 平成19年1月10日(水)まで

- ◎高卒(平成19年3月卒業見込み): 学校を通じて申し込みして下さい。
- ◎高卒(既卒)、短大卒、大学卒: 直接JA阿蘇本所に申し込みして下さい。

### 2. 試 験 日 = 平成19年1月20日(土)

### 3. 募集要領の配布 = 本所総務部総務人事課及び各中央支所で配布します

(お問い合わせ先)

**阿蘇農業協同組合**

総務部総務人事課 藤原・馬場

電話 0967-22-6111



2006総合展示会

11月11・12の両日、阿蘇市体育館で「総合展示会」が開催されました。会場では青壮年部による自家製野菜の直売や餅つき、女性部によるファッションショーなどが行われました。また、大型農機具から小物家電品まで幅広い商品を表示し、多くの来場者でにぎわいました。

11日の開会式には関係者150人が出席。丸山信義組合長が「農作物の不作で農家の生活が厳しい状態であるが、有利な購買条件を確保したので組合員さんにも喜んで頂けるのでは」と挨拶しました。



地産地消のモデルさんによるファッションショーと青壮年部の餅つき

1年の労をねぎらい感謝祭

=小国郷=



依担ぎに参加した力自慢



にぎわった収穫感謝祭

小国郷中央支所・小国郷営農センター合同の収穫感謝祭が11月25日、野菜集荷場で開かれしました。組合員の一年間の労をねぎらうことを目的とした感謝祭は、地域のイベントとして定着し今年で6回目。今回もJA職員の種類バザーに加え、青壮年部・女性部・生産部会などによる地元農産物を使った大鍋料理や牛の丸焼き、手作りパターの実演会、餅つき大会など趣向をこらしたバザーや催しものでにぎわいました。また、JA女子職員による大躍飛び大会や力自慢の依担ぎ大会には、「男性の部60キロ」と「女性の部30キロ」にそれぞれに力自慢の10人の選手が出場。大勢の声援を受けパワーを競い合いました。

「いきなりだんご」に挑戦  
女性部阿蘇町支部加工班

JA阿蘇女性部阿蘇町支部加工班は、くまもと地域子育てスクールの事業の一環として11月18日、阿蘇市立尾ヶ石東部小2年生に昔ながらの手作りおやつ「いきなりだんご」作りを指導。地域とのふれあいや食育の意義を学び合いました。先ず田中弘子支部長が「安心して食べられる食べ物を楽しく

農産フェア「あぐりんコーナー」に  
加藤さん(南小国)が出席

「2006くまもと農業フェア&米まつり」が、11・12日、県農業公園で開催され、JA阿蘇からは米・野菜・肉など、まるごと阿蘇ブランドの農畜産物が出展されました。またJA中央会「あぐりんコーナー」には、加藤宏文さんがホウレンソウを出展しPRに努めました。



「あぐりんコーナー」



女性部員の指導でいきなりだんご作りをする子どもたち